

3. 平成30年度事業実施詳細

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

① 大工道具など実物資料の収集

a) 実物資料の収集

H30/1～12月の収集点数 計 1341点

② 視聴覚資料の収集と保管

a) 「南の島の家づくり」展関連映像

ア) 「インドネシア スンバ島、とんがり屋根の家と大工道具」(22分)

本年度開催の企画展「南の島の家づくりー東南アジア島嶼部の建築と生活」に際し、インドネシア スンバ島の家づくりの過程と大工道具製作工程をまとめた映像を制作した。

イ) 「フィリピン ポントック族、フィナルイ建設の記録」(20分)

アと同じく、フィリピン ポントック族の家づくりについて、国立民族学博物館准教授佐藤浩司氏が1981年に撮影した記録映像を編集した。

ウ) 「家屋構造の秘密を読みとく」(10分)

アと同じく、東南アジア島嶼部の慣習家屋の空間構成について、監修者である国立民族学博物館准教授佐藤浩司氏の解説を映像化した作品を製作した。

b) 「木組みの家づくりー大工・阿保昭則の仕事」(仮)

平成31年開催予定の開館35周年記念展での上映に向けて、伝統的な木組みの技術を用いて住宅を作り続ける阿保昭則氏の仕事記録し、現代社会における木組みの家の可能性について語っていただく。平成31年夏完成予定。今年度は映像制作者の選定を行い、5回程度のロケを実施した。

c) 「聴竹居 旧藤井厚二自邸」(10分)

聴竹居展の会期中にB2階で流すため、既に竹中工務店が撮影していた素材を基に聴竹居のデザイン上の特徴、環境工学上の特徴を解説した映像を制作した。

d) 「一升瓶に矢」関連映像

「一升瓶に矢 木の性質を活かす」(8分)

「Arrow in a Sake Bottle leveraging the properties of wood」(8分)

常設展示B2階の「一升瓶に矢」の展示台にタッチパネルを設置し、そこで一升瓶に矢の製作工程の1分間の動画を流すこととし、その映像を制作した。併せてビデオライブラリーで流すために日本語版、英語版の8分版の映像も制作した。

e) 館紹介映像

YouTube やウェブ、SNS での配信を主な目的として、広報用の紹介映像「竹中大工道具館<公式PV>未来へ伝える匠の技と心」(3分)を制作した。タイトル、キャプションともに4か国語(日本語、英語、中国語、韓国語)対応とし、外国人の検索に対応できるようにした。完成作品は当館 Youtube チャンネルにて視聴可能である。

f) 既存映像資料の英語字幕版

本年度は「数寄屋大工」の英語ナレーション版と「鋸(1)基本鋸編」、「鋸(2)用途別編」、「鑿(1)叩鑿」、「鑿(2)仕上鑿と特殊鑿」、「鉋(1)平鉋」、「鉋(2)特殊鉋1」、及び「鉋(3)特殊鉋2」の英語字幕版を製作した。

- g) 「洋菓子の道具たち」展関連映像
本年度開催の企画展「洋菓子の道具たち」開催に伴い、「ワッフル」「スペキュロス」「チョコレート」「ベルランゴ飴」「ピエスモンテ」の5作品を制作した。

③ 分類整理・保管

- a) 収蔵庫の維持管理
収蔵庫維持管理に伴う定常業務。本年度は、玄関扉の修理、図書室の空調更新、大型プリンター導入に伴う事務室設備の更新、防錆紙・資料保管用の箱・資材の購入などを行った。
- b) データベースの整備
資料の保全ならびに管理作業の効率化を目的に、大工道具・図書・文献・映像・論文等の資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進している。本年度は新規収集資料の登録、写真撮影（1200点）、画像補正・挿入等の作業を実施した。
- c) 所蔵資料の管理・鑑定
本館・収蔵庫・別館の害虫燻蒸、温湿度管理、ボランティアによる資料の油拭き等の定常管理を行った。

所蔵資料の状況

H30/12/28所蔵品データベース集計 35,552点

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

① 大工道具の常設展示

- a) 常設展示の保守管理
常設展示における器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を実施した。また来年度にリニューアル後5年を迎えるため、設備更新を準備している。
- b) 関連印刷物の発行
来館者用のチケット、リーフレット等の印刷物の増版を含む発注量について、前年実績等から適正数量発注に努めた。また、リーフレットについては文字が小さいとの指摘があり、文字サイズを大きくし、かつ休憩室案内も追記した改訂版を作成した。

② 企画展の準備と実施

- a) 企画展「木の国フィンランドの伝統と革新」
本展覧会ではフィスカルス村に住んで創作活動を行っている作家とニカリ社の作品についてご紹介した。あわせて下記イベントを実施した。

協 力：島崎 信、Nikari Oy、株式会社永野製作所

会 場：当館多目的ホール

会 期：2017年12月16日（土）～2018年2月18日（日）

入場者：8,471名

・フィンランド伝統楽器 カンテレ演奏会

日 時：2017年12月16日（土）、2018年1月21日（日）11:00～、14:00～

会 場：1階展示会場内

出 演：大西 智子（カンテレ奏者）

参 加：2/16 30名、35名、1/21 62名、62名

・ワークショップ 子ども用椅子をつくる

講師：カリ・ヴィルタネン（ニカリ社創設者）、永野 智士（株式会社永野製作所）

日時：2018年1月19日（金）、20日（土） 9：30～15：30

場所：地下2階木工室

参加：11名、12名

・「技と心」セミナー 木とともに生きるー北欧の家具づくり

講師：カリ・ヴィルタネン（ニカリ社創設者）

日時：2018年1月21日（日） 13：30～15：00（開場13：00）

会場：神戸芸術センター会議室

参加：100名

b) 企画展「千年の瓦 ー古代瓦を葺くー」名古屋展

2017年開催の東京展・神戸展に続き、伝統の瓦屋根に着目した展覧会を開催した。千年もつ古代瓦の作り方、葺き方を、屋根職人・山本清一氏を中心に、瓦の材料、道具、実寸大の瓦を展示し、映像とともに瓦職人の技と心をわかりやすく紹介した。

会場：トヨタ産業技術記念館（特別展示室）

会期：1月20日（土）～3月11日（日）

入場者：5,045名

特別協力：山本瓦工業株式会社

協力：鶴工舎、元興寺、興福寺、高浜市やきものの里かわら美術館、竹中工務店、橘寺、唐招提寺、東大寺、法隆寺、薬師寺

（関連イベント）

・実演「鬼師による鬼瓦製作実演」

日時：2018年①1月27日（土）、②1月28日（日）、③3月4日（日）

いずれも13：30～15：30（開場13：00）

会場：トヨタ産業技術記念館ホールA

講師：①春日英紀、②加藤佳敬、③山本英輔

主催：高浜市やきものの里かわら美術館

参加者：①42人、②44人、③56人

c) 特別展「アニメーションに見る日本建築 ージブリの立体建造物展よりー」

「となりのトトロ」「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」などスタジオジブリのアニメーション作品に登場する日本の「建造物」を取り上げた展覧会を開催した。絵画資料を中心に、当館で独自に製作した建築模型を加えて構成した。併せて関連グッズの販売も実施した。スタジオジブリのブランド力を受けて、過去最高の入場者数となった。

企画制作：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

後援：神戸新聞社

協力：ア・ファクトリー、さんけい

会場：当館多目的ホール

会期：2月24日（土）～5月6日（日）

入場者：23,264名

（関連イベント）

春休み期間中の開催であったため、となりのトトロの時代設定である昭和30年代のおもちゃを作って遊ぶイベント「昭和30年代のおもちゃをつくろう！」「昔のおもちゃで遊んでみよう！」を開催した（詳細は教育普及プログラムに記載）。

d) 企画展「聴竹居 藤井厚二の木造モダニズム建築」

2018年は藤井厚二の生誕130年、没後80年、聴竹居建設90年の節目の年にあたる。そこで自邸「聴竹居」を中心に、藤井厚二の「日本の住宅」への想いを紹介する展覧会を開催した。直筆図面や直筆原稿、家具、藤井自作の焼物、聴竹居縁側の原寸大再現模型などを展示した。

共 催：竹中工務店、聴竹居倶楽部
後 援：大山崎町
会 場：当館多目的ホール
会 期：5月12日(土)～7月16日(月)
入場者：12,309名

(関連イベント)

・技と心セミナー[87]「藤井厚二の想いを未来へつなぐ」

日 時：5月13日(日) 14:00～16:00

会 場：神戸芸術センター会議室

講 師：松隈章(竹中工務店設計本部)、加嶋章博(摂南大学理工学部教授)

参加者：108名

・聴竹居見学会

会 場：聴竹居

講 師：松隈章、聴竹居倶楽部

日 時：5月19日(土) 合計6回

参加者：①13名、②14名、③12名、④13名、⑤14名、⑥13名

日 時：5月26日(土) 合計5回

参加者：①10名、②14名、③14名、④12名、⑤13名

日 時：8月25日(土)(地震のため中止した6月30日の振替) 合計6回

参加者：①7名、②5名、③8名、④8名、⑤4名、⑥2名

日 時：9月8日(土)(大雨のため中止した7月7日の振替) 合計4回

参加者：①13名、②8名、③9名、④13名

・八木邸見学会

会 場：八木邸

講 師：松隈章、加嶋章博、八木邸倶楽部

日 時：6月9日(土) 合計3回

参加者：①19名、②19名、③20名

日 時：6月16日(土) 合計3回

参加者：①19名、②20名、③20名

e) 「第八回 座る・くらべる 一脚展+ (プラス) 2018」展

兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催した。本年度のテーマは「シロウの椅子」で15名の作家が出展した。

会 場：当館多目的ホール

会 期：2018年8月28日(火)～9月9日(日)

入場者：2,510名

(関連イベント)

・ワークショップ「木のウィンドチャイムを作ろう」

日 時：8月31日(金)、9月1日(土)

9:30～12:00、②13:30～16:00

参加者：各回15組

- f) 企画展「南の島の家づくり 東南アジア島嶼部の建築と生活」東京展・神戸展
東南アジア島嶼部と呼ばれる大小さまざまな島からなるインドネシアとその周辺の地域に焦点をあて、当該地域の建築と生活について、主に建築をつくる技術に焦点をあてて紹介した。東京展は公益財団法人竹中育英会の主催で開催した。

・東京展

主 催：竹中育英会
共 催：ギャラリーエークウッド
企 画：竹中大工道具館
協 力：国立民族学博物館
監 修：佐藤浩司（建築人類学者 国立民族学博物館准教授）
会 場：ギャラリーエークウッド
会 期：8月20日～9月28日

・神戸展

主 催：竹中大工道具館
後 援：在大阪インドネシア共和国総領事館
協 力：国立民族学博物館
監 修：佐藤浩司（国立民族学博物館准教授）
会 場：当館1F多目的ホール
会 期：10月6日～12月2日
参加者：11,574名

（関連イベント）

東京展

・ワークショップ「自然素材で家をつくる技」
日 時：8月26日（日）
講 師：佐藤浩司（建築人類学者 国立民族学博物館准教授）
相良育弥（茅葺職人 くさかんむり代表）
菅野勝友（宮大工）
会 場：竹中工務店東京本店内特設会場
参 加：49名

・ギャラリートーク「自然とともに生きる—バリの自然食文化」
日 時：9月28日（金）
講 師：アユ・ガヤトリ・クリシュナ（バリ料理・生活研究家）
会 場：ギャラリーエークウッド展示会場内
参加費：32名

・シンポジウム「南の島の暮らしと建築—自然とともに生きる術」
日 時：9月28日（金）
講 師：佐藤浩司（建築人類学者 国立民族学博物館准教授）
グデ・クリシュナ（バリ島在住の建築家）
阿部光葉（東京工業大学大学院生）
会 場：竹中工務店2階Aホール
参 加：109名

神戸展

・ワークショップ「身近な自然で家をつくろう」
日 時：①2018年10月20日（土）②2018年11月17日（土）
講 師：佐藤浩司（国立民族学博物館准教授）
相良育弥（茅葺職人 くさかんむり代表）
菅野勝友（宮大工 きつねもり代表）

会 場：①10/20：神戸市西区農場②11/17：竹中大工道具館館内特設会場
参 加：①23名②20名

g) 神戸芸術工科大学作品展

地域連携企画として神戸芸術工科大学の学生作品展を開催した。今回は神戸芸術工科大学「デザインソイル」の作品と、スウェーデンのヨーテボリ大学ステネビー校との合同プロジェクト作品を展示した。

主 催：神戸芸術工科大学
共 催：竹中大工道具館
会 場：当館多目的ホール
会 期：9月15日～9月30日
入場者：2,495名

h) 企画展「洋菓子の道具たち—型で味わうお菓子の歴史—」

エーデルワイスミュージアムが長年にわたって収集したヨーロッパ各地の製菓器具コレクションの中から、型を中心とした貴重な資料を展示し、あわせて装飾に凝った華やかな菓子容器や現代のパティシエがつくり出す最高峰の工芸菓子「ピエスモンテ」を紹介した。

共 催：エーデルワイス
後 援：兵庫県洋菓子協会
会 場：当館多目的ホール
会 期：2018年12月15日（土）～2019年1月27日（日）

（関連イベント）

・ワークショップ「お菓子の家を作ろう！」
日 時：12月15日（土）①10：00～12：00、②14：00～16：00
参加者：各回12組

i) 企画展共通備品の整備

企画展開催に必要な備品（映像機器、サインスタンド等）を購入した。

③ 企画展の中期的準備

a) 企画展「水車大工（仮）」

平成31年の企画展として、福岡県久留米市在住の水車大工・野瀬秀拓氏に関する展覧会を計画。本年度に展示収集、展示品設置に関する事前調整を行った。

b) 企画展「唐招提寺（仮）」

平成32年の企画展として、1200年以上の歴史を持つ国宝・唐招提寺金堂にスポットをあて、唐招提寺金堂の建築美をつくりあげてきた匠の技と知恵を紹介する企画展を準備中。

c) 企画展「SOMA 日本の森と素木の家具」

平成31年の企画展として、岐阜県美濃加茂市の木工家・川合優氏と川合氏の立ち上げたライフスタイルブランド「SOMA」を紹介する展覧会を準備中。

d) 企画展「第17回伝統工芸木竹展（第1回神戸展）」

日本伝統工芸展の木竹工部門で隔年で開かれる「伝統工芸木竹展」の神戸展を当館にて開催するため、日本工芸会と開催概要・ワークショップ等の事前調整を行った。

- e) 企画展「木工藝—清雅を標に— (仮)」東京展
平成 31 年の企画展として、日本伝統の木工芸の「技」と「心」を、人間国宝・須田賢司氏の作品を通じて紹介する展覧会を準備中。資料調査、展示実施計画の策定を進めている。
- f) 開館 35 周年記念展「木組(仮)」
開館 35 周年記念として「木組」をテーマとした大型の巡回展を準備している (平成 31 年夏から 32 年にかけて東京、名古屋、神戸等で開催予定)。本年度は基本構想を立案し、各種大型展示品の企画・制作準備を進めた。またあわせて関連映像資料の撮影を進めた。
- g) 企画展「ヨーロッパ (仮)」
北欧を中心とした木造建築とその技術に関する展覧会を平成 32 年に開催するための基礎調査を行い、情報収集を継続している。

(3) 大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

① 海外の建築技術と道具

- a) 東アジア (中国、韓国)
日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。韓国については寺院建築の宮大工 2 名のインタビューを実施した。
- b) 東南アジア
東南アジア各国の大工道具と建築技術に関する調査研究を近年継続的に実施している。本年度は企画展「南の島の家づくり」に関連して、ジャワ王宮大工の建築技術とバリの建築材料に関する委託調査を実施した。
- c) ヨーロッパ
ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する研究を継続的に進めている。本年度は北欧の木工技術に関する基礎研究としてフィンランド大工道具を企画展終了後に寄贈を受けた。

② 日本の建築技術と道具

- a) 大工技術書
本年は近年収集した新規収蔵卷子本「黒田宗信伝来文書」について内容の読解整理を行い、その成果を史料紹介として学会誌『建築史学』研究ノートに投稿し採用された (第 70 号、9 月発行)。
- b) 建築部材の加工技術 (部材刃痕)
本年度は神戸市、姫路市からの依頼により、箱木家住宅・古井家住宅の加工痕調査を行った。また 2 月には神戸教育委員会向けに加工痕についての講演会を実施した。
- c) 道具と鍛冶
近世から近代の名工鍛冶とその道具を対象に、既往研究調査ならびに学識者や鍛冶への聞き取り調査を、中期的課題として継続的に実施している。本年度は「江戸熊の鑿」のエピソードで知られる加藤熊次郎の経歴について調査し、その成果を来年 3 月発行予定の当館研究紀要に掲載すべく原稿を執筆した。
- d) 近世民家の住まい方
近世の民家における住まい方の歴史あるいは構法・加工技術の歴史について調査研究を進める。今年度は資料調査などを行う。日本建築学会大会において「石の代りに貝を使う」と題した発表を行った。

③ 博物館学：教育普及活動

本年は当館ボランティアと「子どもプロジェクト」を立ち上げ、学校団体向けの展示解説や夏休み期間中の子ども向けのギャラリートークを試行した。次年度以降も継続し、ブラッシュアップを図る。また、文化庁の助成金事業の一環として製作した視覚障がい者向けのハンズオンキットを活用したプログラムを企画しており、来年2月にワークショップを開催予定。今年度はミュージアム・マネージメント学会の第23回大会にて「匠の技を伝えるミュージアムの試み」と題して発表・パネルディスカッションを行った。

④ 「技と心」研究会の開催

館外学識者ならびに館職員を対象に、木造建築ならびに道具に関する専門家を招聘して、研究会を開催している。本年は来年度の企画展「木を組む（仮）」を見据えて、建具職人横田栄一氏を招聘し、組子細工の技術について話を伺った。

期日：10月12日（金）

会場：竹中大工道具館 B2F 木工室

内容：組子細工の技

講師：横田栄一（栄建具工芸代表）

参加：35名

⑤ 出版活動

a) 研究紀要 No. 29 の発行および No. 30 の準備

調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 29 を3月20日に発行し、当館関係者、大学、専門研究者等に配布した（800部作成）。今号は下記3編を収録した。年後半には No. 30 発行に向けて各担当者が原稿執筆を進めている。

・安田徹也（当館学芸員）「文献からみた魯般尺」

・崔ゴウン（当館学芸員）「古代における瓦の製作道具について～「桶巻作り」による平瓦と丸瓦の復元作業を通して～」

・板倉満代（設計事務所主宰）「イタリアの木工道具について～イタリア北東部ヴェネト州における調査・収集報告～」

⑥ 調査研究一般

a) 情報収集活動

道具と建築に関する情報収集として、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施した。

b) 研究者ネットワークの形成

研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を目的として研究会、イベント等に参加している。今年度は削ろう会全国大会（久留米）に参加したほか、木工具温故会との協力関係について調整した。

（4）教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

① 諸施設への協力

a) 資料貸出

- ア) 実物資料貸出 (17件)
- イ) 画像貸出 (6件)
- ウ) 原稿執筆 (6件)
- エ) 講師派遣 (14件)
- オ) 博物館実習受入
8 大学9名の博物館実習生を受け入れた。

- b) 「伝統建築工匠の技」の無形文化財遺産登録活動への協力
日本の伝統的な木造建築建築をなりたたせて来た職人技術である「伝統建築工匠の技」の無形文化財遺産登録活動に参加協力した。

② 講演会とセミナーの開催

a) 「技と心」講演会の開催

館外の学識者や著名人物を講師として迎え、一般向けに大工道具や建築技術に関する講演会を実施している。本年度は、東南アジア関連研究者と現地の建築家を講師に迎え、「南の島の暮らしと建築－自然とともに生きる術－」を開催した。

- ・「技と心」講演会「南の島の暮らしと建築－自然とともに生きる術－」

日 時：10月7日（日）

講 師：佐藤浩司（国立民族学博物館准教授）、グデ・クリシュナ（バリ島在住の建築家）、阿部光葉（東京工業大学大学院生）

会 場：ラッセホール大会場（神戸市中山手通 4-10-8）

参 加：81名

b) 「技と心」セミナーの開催

一般客を対象に当館ならびに近隣会場にて実施した。

回次	会場	期日	内容	講師
第85回	神戸芸術センター会議室	1/21	「木とともに生きる－北欧の家具づくり－」(100名参加)	カリ・ヴィルタネン（家具職人、ニカリ社創設者）
第86回	神戸芸術センター会議室	3/17	「近世民家の住まい方」(46名参加)	安田徹也（当館研究員）
第87回	神戸芸術センター会議室	5/13	「藤井厚二の想いを未来へつなぐ」(108名参加)	松隈章（竹中工務店設計本部） 加嶋章博（摂南大学理工学部教授）
第88回	1F ホール	7/22	「韓国伝統住宅の住まい方」(35名参加)	崔ゴウン（当館学芸員）
第89回	1F ホール	8/26	「江戸城の大奥」(71名参加)	平井聖（建築史家・昭和女子大学名誉教授）
第90回	神戸芸術センター会議室	11/17	「王様の館の造りかた－ジャワ島の大工技術－」(26名参加)	泉田英雄（元筑波大学講師）

③ 教育普及プログラムの実施

a) 館内プログラム

来館者に道具の使用を通して大工道具や技術への理解を深めてもらうため、ちよこつと木工（工作ワークショップ、毎水土日祝）、大工による鉋削り体験（月1回程度）、大工道具にチャレンジ（月2回程度）、夏休み子ども体験教室、木工作家によるワークショップなどを定期的実施した。2018年1月～12月実施実績は、実施延日数166日、参加延人数約8,300名。

ア) 木工イベント (1月～12月)

プログラム名	実施日/実施日数	講師	参加人数
大工道具にチャレンジ!	合計 28 日	北村智則、ボランティア、委託大工	6,914 名
大工による鉋削り体験	合計 7 日	北村智則	
ちょこっと木工	合計 109 日	北村智則、ボランティア、委託大工	
刃物研ぎ教室	合計 4 日	北村智則	合計 36 名
包丁研ぎ教室	2/8、11/6、7、8	北村智則	58 名
ワークショップ「座編み教室」	1/26	桧皮奉庸	14 名
大人のための木工教室 (角材編)	3/6、7、8、20、21、22	山下晃功 (島根大学名誉教授)	8 名
春休み子ども体験教室「昭和30年代のおもちゃをつくろう!」	3/10、24、27、29、4/3、7	当館ボランティアスタッフ	217 名
春休み子ども体験教室「昔のおもちゃで遊んでみよう!」	3/10、24、27、29、4/3、7	当館ボランティアスタッフ	約 300 名
大人のための木工教室 (板材編)	5/22、23、24、6/5、6、7	山下晃功 (島根大学名誉教授)	8 名
夏休み子ども体験教室「和船」「椅子」「道具箱」ほか	7/25、26、27 8/3、7、9、16、17、21、22、24、28、30 合計 13 日	北村智則、ボランティア、委託大工	親子 289 組
ポートピアホテル夏休み子ども教室	8/10	北村智則	親子 3 組
大人のための木工教室 (中級編)	9/5、6、7、19、20、21	山下晃功 (島根大学名誉教授)	5 名
ワークショップ「我谷盆を作ろう」	10/4、5、10	森口信一 (Shin 工房)	合計 35 名
ワークショップ「キッズウィンザーチェアを作ろう」	11/15～16	後藤雅宏 (後藤雅宏工房)	7 名
クリスマスワークショップ「クリスマスガーランドを作ろう」	12/1、2	メモリ (木育ユニット)	親子 41 組
鍛冶屋体験「切出し小刀を作ろう」	12/5～7	山本健介 (山本鉋製作所)	10 名

イ) 学校向けプログラム

小学校の団体見学受入れおよび教員研修を実施した。2018年1月から12月までの実績は、学生向けのプログラム8校、教員研修を2回実施した。

ウ) 団体見学向け大工道具体験

館内の団体見学者向けの大工道具体験を実施した。2018年1月から12月までの実績は10団体11回。

b) アウトリーチ活動

小学校での出張授業を実施した。2018年1月から12月までの実績は、出張授業11校。

④ 木工室の管理・運営

安全かつ円滑なイベント実施のため木工室の管理業務を実施した。また、イベント実施に必要な大工道具、工作機械、備品等を拡充した。

⑤ ボランティア活動の管理・運営

大工道具や建築、樹木等に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説および茶室公開時の解説、(3)館内ワークショップ活動の運営および補助、(4)アウトリーチ活動での補助、(5)木工室の管理・運営、木工イベントの補助活動等に携わってもらっている。これらの活動の管理運営、企画展に関する勉強会、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施し、各活動の充実化に向けての計画を進めている。

今年度は「子どもプロジェクト」を立ち上げ、学校団体や夏休み期間中に子どもを対象としたギャラリートークを開催した。

また近年増加の海外の来館者対応として、月1回英語解説勉強会を開催している。

展示解説を希望する来館者の急増に伴い、解説の新人ボランティアを9名採用し、現在のボランティア登録人数は53名である。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための勉強会・見学会を下記の通り実施した。

内容	実施日	講師
解説ボランティア勉強会(常設展示)	不定期	各コーナー担当学芸員
企画展勉強会	2/3, 5/11, 10/6, 12/14(予定)	企画展担当者
木育インストラクター養成講座	10/11, 11/29	田口浩継(熊本大学教授)
新人ボランティア研修会	10/27, 30, 11/3	西村章、ボランティア事務局
ボランティア見学会(薬師寺東塔・不審菴・京都迎賓館)	5/25, 7/27, 10/22	奈良県文化財保存事務所・表千家・安井空工務店齋藤棟梁
ボランティア英語解説勉強会(TCTG)	毎月第2水曜午前	解説ボランティア有志

(5) 竹中大工道具館の管理、運営(管理業務)

- ① 管理運営一般
- ② 広報活動
- ③ ミュージアムショップの運営
- ④ 茶室の維持・管理
- ⑤ 情報インフラの維持・管理
- ⑥ 理事会・評議員会、役員見学会の開催
- ⑦ 財団法人事業報告会への参画
- ⑧ 運営管理の改善と定着化

。